

縄文の国へようこそ

～登別縄文ときどきまつり～

10月11日(土)、のぼりべつ文化交流館『カント・レラ』で、『登別縄文ときどきまつり』（市主催）が開催されました。この催しは、縄文文化の体験を通して、その世界観や自然観などを学びながら豊かな心をはぐくんでもらおうと、今年初めて開催されました。

屋外では、黒曜石でナイフ作りや勾玉作り、土器の野焼き、火起こし体験などが行われたほか、館内では、ドングリクッキー作りや『縄文時代の狩猟と落とし穴猟』をテーマにした縄文講演会が行われました。

『黒曜石でナイフをつくろう』では、黒曜石をシカの角で削り、最後にサケを試し切りして、自分の作ったナイフの切れ味を確認。参加者からは、「こんなに切れるなんてすごい」と驚きの声が上がっていました。

また、館内ではサケの入った縄文鍋や、ササとドングリの実をいって作った縄文茶が振舞われ、参加者は冷えた体を温め、秋の肌寒い中、元気に縄文文化を体験していました。



▲黒曜石でナイフ作り体験



▲火起こし体験



▲サケの試し切り

資格を取得して雇用促進

～自然ガイド養成講座～



10月2日(木)、ふおれすと鉦山で『自然ガイド養成講座』（登別市雇用創造推進協議会主催）がスタートしました。この講座は、登別の経済活性化と市民の雇用機会を増やすため、新しい登別観光の人材の確保と育成を目指して行われている事業の一つです。

講座には、定員いっぱいの20人が参加。毎週木曜日の計28回（全130時間）を来年3月まで受講し、北海道アウトドア資格（自然ガイド）の取得を目指します。

この日は、講習を主管するNPO法人ねおすの上田融さんによるオリエンテーションが行われ、その後、第1回目として、講師の荒井一洋さんによる『ガイドの役割・責任』についての講義が行われました。

参加者は、配られるたくさんの資料に目を通し、真剣な表情で講義に耳を傾けていました。

となりまちをもっと知ろう！

～三市合同施設見学会～

10月3日(金)、登別・室蘭・伊達の三市の市民を対象とした『三市合同施設見学会』が行われました。

この見学会は、となりまちの理解と市民交流を深めようと昭和57年から開かれており、この日は登別市民4人、室蘭市民26人、伊達市民10人の計40人が参加し、登別市内の施設や観光地などを見学しました。

のぼりべつ文化交流館『カント・レラ』では、縄文文化体験『シカの角でアクセサリーづくり』を体験。泉源公園では、運良く間欠泉の噴出時に当たり、間近で噴き上がる間欠泉に歓声が上がっていました。

また、観光ボランティアガイドの案内で、1時間掛けて地獄谷周辺を探索。年配者が多く、途中音を上げる参加者もいましたが、最後に天然足湯につかると、「運動の後の足湯は最高」と満喫していました。

